

きいちご便り No. 11

平成30年8月15日
小規模多機能ホーム きいちご倶楽部

<主な活動とご様子>

6月から8月初旬までのきいちごでのご利用者の活動とご様子の一部をご紹介します。

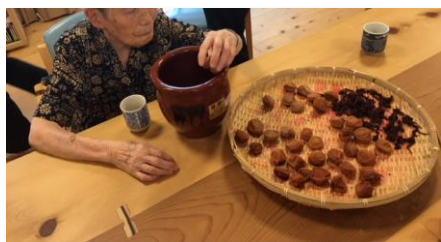


6月6日、笹巻をご家族、ご利用者と作りました。ご利用者も手慣れた手つきで三味線巻き、本巻き、坊主巻きなどの巻き方で巻いておられ、職員も教えていただきました。



7月18日、19日にそうめん流しを行いました。真竹を割って作り、お椀も竹で作りました。

7月初めに皆さんで漬けた梅干しをざるに並べて・・・



三日三晩天日に干した後、紫蘇と一緒に壺に保存しました。いい梅干しができたと言っていました。

梅ジュースやらつきょう漬けもご利用者と一緒に作りました。



8月6日
春にも来ていただいた三味線ライブの本間 健さんに民謡を歌っていただきました。

<ミュージック・ケアについて>

きいちご倶楽部では、開設当初からアクティビティのひとつとしてミュージック・ケア®（以下、MC）を月3～4回くらい行っています。これは日本で最初の音楽療法とされる加賀谷式集団音楽療法を発展させたもので、「だれでも、どこでも、いつでも」楽しめる音楽療法として全国の介護、介護予防、障がい者（児）支援、保育、特別支援学校、地域サロンなどで実践されています。きいちごのスタッフは毎年順次、基礎的な研修を受けています。

MCは「音楽の特性の一部を利用して、その人がその人らしく生きるための援助をすること」（日本ミュージック・ケア協会ホームページより、以下同じ）を目的としています。



その効果として、身体機能の向上とともに、対象者が「対人的な関係の質を向上させ、情緒の回復や安定」を得るとしています。セッションを通して、対象者は「安心できる場と関係性を獲得し、生活意欲の喚起や助長、向上へとつなげ」ます。

病気や障がいによって様々な生活のしづらさや不安を抱えるご利用者との間に「安心できる場と関係性」を築くことは、ケアや支援を行う上で最も重要なことです。MCのメソッドには、音楽を楽しみながら、こうした「関係性の改善」を図る工夫が随所に盛り込まれています。

MCの実践者は「その人の今のままを受け止めるところからはじまる。自らが自分らしく成長しようと思うまで、そっと寄り添う」。こうしたMCの対人援助の理念にも学びたいと思っています。



<ご利用の状況（7月1日～8月10日）>

登録ご利用者数	16人（8月10日現在）
通い人数/日	9.0人
宿泊人数/日	3.3人
訪問回数/日	12.7回

社会福祉法人星隆会 きいちご倶楽部 www.seiryuhkai.com
〒683-0025 出雲市塩冶町南町 5-1-3
TEL 0853-23-9115 FAX 0853-23-9118